



文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報・研修館が主催する全国レベルの発明コンテスト『パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト』。自ら考え出した発明またはデザイン（意匠）を応募し、優秀なものには出願支援対象として表彰。入賞者には特許庁への出願を支援するという取り組みを活用し、創造的思考力を向上させるべく、徳島大学では「アイデア・デザイン創造」（理工学部及び工学部開講）や「知的財産事業化演習」（工学部3・4年

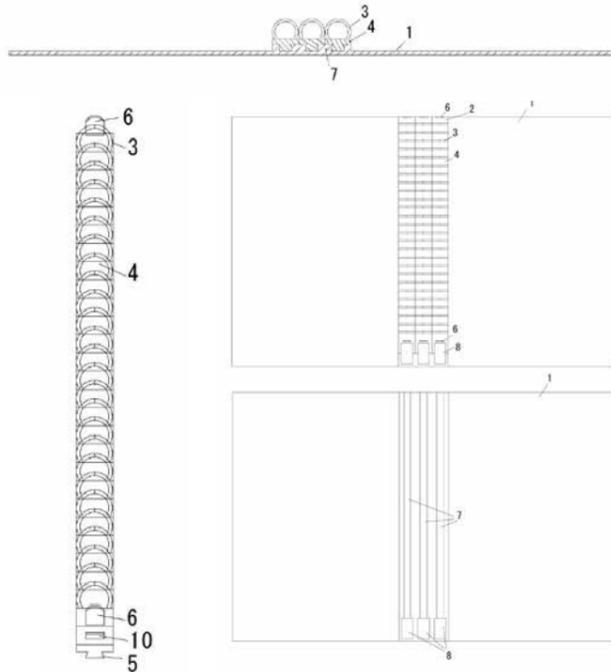
次開講）といった授業を展開しています。このカリキュラムの受講者から、昨年度のパテントコンテストになんと5名が入賞！大学部門受賞者は8名というからまさに徳大生大活躍!! 受賞作品について一人ひとりにお話を伺いました。



## まとまるノート

工学部 機械工学科 4年

大森 大輝 (おおもり だいき)



「5年間、ルーズリーフにバインダーという形式でノートをとっていて、一学期間の授業が10教科くらいあるのを1冊にしていたんですが、10項目を1冊にするとかなり量が多くて。その日の授業の分だけをワンタッチで取り出せるようになれば・・・と考えたのがきっかけです。徳島大学に来る前は香川高専にいたんですが、中学3年生の時から、もの作りの道に進みたいと考えて進学したので、自分の発想を促してくれる授業はやっていて楽しかったです。最初から誰も思いつかないところにズバッと行くのは難しいですが、アイデアに改良を重ねて、これまでにないものを作る工程も面白かったです」。

「まとまるノート」パテントコンテスト優秀賞、日本弁理士会会長賞受賞。従来は一つしかないリングを増やし、スライド式にしてどれでもワンタッチで取り外しできるようにしたところがポイント。  
※現在特許出願中。

# 大発明へとつながる大いなる一歩

## パテントコンテスト

### 入賞作品紹介!

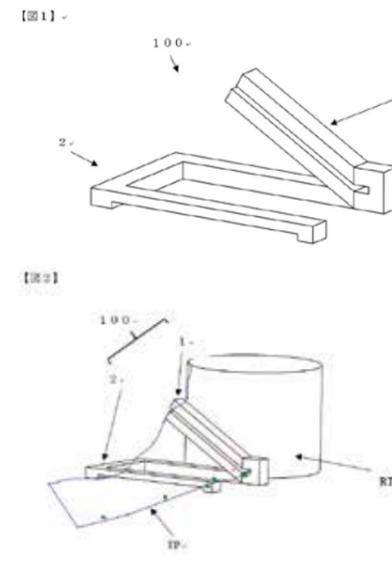
# 徳大生 大活躍!



## テープ供給装置

理工学部 理工学科 3年

大西 厚徳 (おおにし あつり)



レコード巻きテープをねじれることなく供給できるテープ供給装置。番号は特許申請の際の申請書と対応している。「受賞式の日の特許庁の見学にも行き、楽しかったです」。

「最初に思いついたのは、雨の滴を一か所にまとめて落とすことのできる傘。でもこれは過去の事例調べをしたときに、数年前に全く同じものが特許申請されていました。それでネタに困って工作室をうろろしていたら、レコード巻きテープが置いてあって。それがパッと目に入った時、テープが流れる距離が長いのがなんだか気持ち悪く見えて、今回の装置を考えました。授業でもの作りの思考法とか、アイデアの出し方を習うわけではないですが、大学内でロボットプロジェクトやロボコンプロジェクトもやっているの、そういう人たちに聞いた話がものを作るときに役立っているのかなと思います」。

## 替芯容器

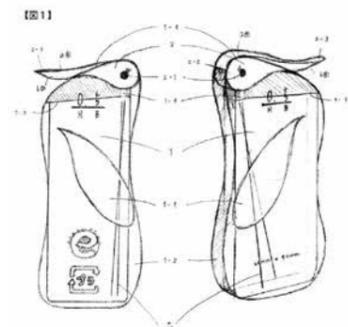
理工学部 理工学科 3年

黒田 尚章

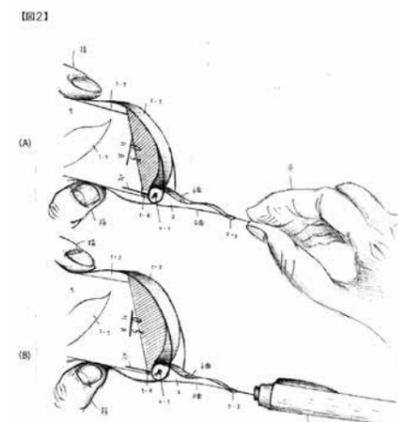
(くろだ なおあき)



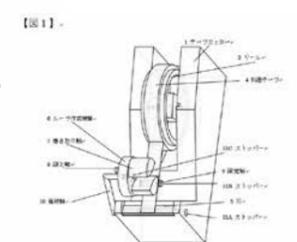
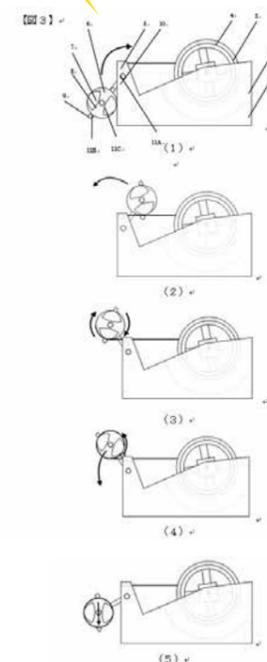
「授業の2回目で『特許をとる案を出す』という課題が課されるんです。『マジか!?!』と思いましたけど、『徐々に磨いていけばいいから、簡単なものでいい』と言われて、わりと早い段階でシャープペンの替芯容器にしようと思いつきました。従来の芯を手でつまんで入れる構造では手が汚れてしまうので、もうちょっといいものがないかなと。構造はこれまでのものと似ているんですが、蓋側から芯を出すことで、入れやすく、手も汚れず、使いやすいものを考えました。授業を通さないと、こうしたコンテストに応募するのは難しいんじゃないかと思うので、今回はいい体験をさせてもらいました」。



はじめは外側だけを考えていたそうだが、構造的なことも考えるよう言われ、蓋部分は開いているときと閉じているときは硬めのストッパーがかかるようにするなど、より具体的にアイデアをブラッシュアップしたそう。  
※現在特許出願中



応募に際し、パテントマップガイダンスというすでに特許申請されていないかを調べる授業があるそうで、そのときは「かなりヒヤヒヤしました」という黒田さん。蓋の部分は先にいくほど細くなっていて、芯が穴にスッと入るようにしている。



「テープの規格が同じなら、テープを丸める丸い部分だけを取り付けできるようにすることもできるかも。試作は作っていないので、想像ですが」。



## テープカッター

理工学部 理工学科 3年

三枝 渚 (さえぐさ なぎさ)

「僕が考えたのはセロハンテープをぐるっと巻いて、両面テープのように使えるテープカッターです。この授業を受けているときにやっていたアルバイトで、セロハンテープで両面テープを作る作業をよくやっていたのが発案のきっかけです。先についた丸い部分に指を入れて引き抜くと、外すときに指紋が付かないようになっています。これは受賞の際にはなかったアイデアで、受賞した後に弁理士さんが特許出願の申請の相談にのってくれるんですが、そのときに少し変えました。せっかく思いついてもすでに特許を取られていたりして、ここにたどり着くまでに何度か案も変えているんですが、受賞できてよかったです」。